

試食会の言語行動・非言語行動について

—30歳未満の女性グループを中心に—

ポリー・ザトラウスキー*

1. はじめに

料理の評価は個人によるものだけではなく、いっしょに食べている人に影響を受けながらなされると考えられる。本研究は試食会を対象にし、参加者はどのような観点から料理について話すのか、どのように料理を評価するのかを考察する。

2. 先行研究

食べ物と言語との関係を考察した研究の中で、早い時期のものとして非言語行動の表現材料に関する林 (1973, 1974) の研究が挙げられる。林の7つの表現材料のうち、特に視覚材料、聴覚材料、触覚材料、嗅覚材料、味覚材料は料理の評価に関係するものである。

食感を表現するオノマトペの研究もある (秋山2003, 早川2006)。秋山 (2003) は、新聞記事、料理の本、雑誌等の食品名やそのキャッチフレーズに見られる歯ごたえ、歯触りや物を噛む音を表すオノマトペを考察した。野菜のオノマトペが一番多くて、「日本人は歯にべとつく感じの食感覚はあまり好まず、中にほんの少し芯を感じるくらいほどよい噛みごたえ、換言すれば、小気味よい切れや張りのある食感覚を求めると述べている (秋山2003:23)。

評価に関して、評価を外的评价 (external evaluation) と内的評価 (internal evaluation) と

に分ける Labov (1972) の研究が挙げられる。物語の場合、「外的評価」は、語り手が出来事について語るのを止め、ストーリーのポイントや、語り手自身が感じたことを引用し、その時の気持ちを直接表す表現である。一方、「内的評価」は、「強意表現 (intensifiers)」、「比較表現 (comparators)」、「相関表現 (correlatives)」、「解説的表現 (explicatives)」を用いて間接に評価すると述べている。

C. Goodwin (1986) と C. Goodwin & M. Goodwin (1987) は、評価は、「評価形式 (assessment segment)」(‘beautiful’ のように評価を直接表す単語) と強調表現やイントネーションによる「評価信号 (assessment signal)」だけではなく、評価活動 (assessment activity)」の過程の中で作り上げられ、その際共通の理解を作るために言語・非言語行動が用いられると述べている。「評価活動」とは、「評価表現」を含み、ある参加者が「評価行為」をし、その後それに対するほかの参加者の、その評価と関係ある「行為」をモニターしながら、それに影響を受け、時間とともに自分の評価を変えていくことである。評価は個人の中にも存在するのではなく、参加者が互いの言語・非言語行動から次にどのような評価が来るのかを予測し、時間とともに展開する一連の複雑な行為である (C. Goodwin & M. Goodwin 1987:32)。

ザトラウスキー (2010b) はテレビの料理番組から採った料理を食べながら評価する談話10個を対象にし、出演者は言語・非言語行動 (表情、ピッチやイントネーション、身ぶり等) を用いて

*ミネソタ大学教授

どのように食べ物の評価をするのか、どのように影響し合ったり、共同で作り上げたりするのかについて考察した。感情・評価は複数の出演者が展開させる過程の中で作り上げられ、互いの感情・評価活動をモニターしながら影響し合い、時間とともに変えていく。参加者同士で発話を重複させながら類似の評価をし、共同発話を行う。また、それぞれの参加者が周囲に合わせて自分の評価を調整しようとする、相互作用における動的な過程の中で共通の理解を作り上げていく。

以上のように、食べ物に関する表現材料やオノマトペの研究、物語、日常会話、テレビ番組等における評価の研究はあるが、自然な食事の際の会話に関する研究はあまりない。

3. 試食会の資料収集について

本研究の資料収集のため簡単な調査を行った。その調査は、1) 参加者募集、2) 調査前の情報確認、3) 調査前日の晩から料理の準備、4) 調査の日の試食会、5) 調査後のアンケート、承諾書のコピーという5つの手順で行われた。

参加者募集は、食べ物に関する研究の資料収集のため無料で昼食を食べ、感想を述べてもらう参加者を募集した。「世界の国々の本格的な料理を少しずつ食べながら、その食べ物、味等をどう思うか話していただく」ため、参加者（友人と3人）を試食会に招待した。その際、日本で生まれ育ったこと、全員が30歳未満か、または全員が30歳以上であること、長い間（3ヶ月以上）外国に住んだことがないこと、食物アレルギーと食事制限がないことを参加条件にした。

調査前にメールで参加条件の確認を行った。その際、1) 参加希望日時、2) 参加者全員の名前・メールアドレス、3) 参加者全員が30歳未満、または全員が30歳以上であること、4) 参加者に食物アレルギー、食事制限がないこと、5) 参加者の海外渡航経験（当時の年齢、場所、期間）を確

認した。また、承諾書の用紙を添付ファイルで送った。

調査前日の晩に料理の準備を行った。前もって前日に料理できるものは料理しておくとともに、当日食べる直前でないといけない食べ物の材料、作るためのお鍋等を準備した。

調査の日には、大学の守衛さんから鍵をもらい、その日来る参加者とアルバイターの名前のリストを渡してから部屋と台所の準備を行った。テーブル、椅子、材料等を移動し、試食会の録画のためにビデオカメラ、音声レコーダー等のセッティングをした。まず、受付で参加者に調査に必要な情報を記入してもらった。（氏名、所属・学年（学生の場合）、仕事（社会人の場合）、年齢、性別、母語、出身地、最終学歴、試食会のことは誰から聞いたのか、他の二人の参加者との関係・親しさ、居住歴、好きな味、嫌いな味等を差し支えない程度書いてもらった。）書いてもらう間、うどん、マカロニを茹でたり、お料理の盛りつけを行った。

試食する際には参加者が食べる前に日本人のアルバイターに次頁の【例1】のような指示をもらった。

試食会は3コースからなった。日本料理（油揚げとわかめが入ったうどん、にぼしが入ったひじき、きな粉棒、のり巻のせんべい）、セネガル料理（鶏肉、ニンジン、ジャガイモをピーナツバターのソースで煮るマフェ（Mafe）、甘いヨーグルトがかかった白いトウモロコシの粉と砂糖で作るラッハ（Laax）、バフィラ（Bafira）というハイビスカスのジュース）、アメリカ料理（サウザンドアイランドドレッシングがかかったレタス、トマト、クルトン、干しクランベリーのスラダ、チーズがかかったマカロニ、チョコレートケーキ、犬の形をしたリコリス）という3コースであった。参加者が前のコースを食べ終わってベルを鳴らしたことを合図に、日本人のアルバイターに次の料理を出してもらった。参加者が3コースを食べながら感想を述べているところを録音・録画した。

【例1】試食する際の参加者への指示（【会話3】(2:36-4:24)）

- 30z この研究では、人はどのように食べ物を、感じているか、
 31z 経験しているかということを知りたいと思って、
 32z えーと被験者の方々を、呼んでいます。
 33z で、えーと一、この、食べ物をな、いくつ何種類かお出しするんですけども＝
 34z 食べながらどのように感じるかということ＝
 35z みなさんで話し合ってください。
 36g //うーん。||
 37z //で一人間||には、
 38z 視覚聴覚触覚嗅覚味覚、の五感があります。
 39g //うーん。||
 40z //で一食べながら||ら、
 41z その五感を使って食べているもの、について話してください。
 42z たとえ||ば見た目、で||すとか、食べたときの音、
 43g //うーん。||
 44g う||ーん。||
 45z //それから||
 46z 食べたときの感じ舌触り肌ざ、えーと一歯触り、それから嗅覚匂い、
 47z で、あと味、ですね。
 48z などについて、気付いたことを、話していただきたいと思います。
 49z もしお出しする食べ物の中で、初めて食べると思ったものの中、
 50z あーた-初めて食べるというものもあるかと思うんですけども＝
 51z そういう場合は何なのか、材料が何なのかを想像して話し合ってみてください。
 52z で、これから三コース、それが、ひとコース目なんですけれども＝
 53z 食べていただきます。
 54g う||ーん。||
 55z //でそれぞれ||のコースを別のお皿でお出しします。
 56z で一つのお皿が一つの国の、料理です。
 57z で試食できる量の食べ物が、えー幾種類か乗っていますので＝
 58z 必ず少しずつ食べてみて、召し上がってみてください。
 59i //はい。||
 60z //でもし、||嫌いであれば＝
 61z そのことを、まあ、
 62z まずいで@ある@とか||嫌いで||あるとか、||おいしい||であるとか、
 63g // {フフ} ||
 64h // {フフ} ||
 65g はい。
 66z 言っていただければと思います。

- 67z で食べているものは何なのか、は、
 68z えーと食べ終わった後で説明いたします。
 69g //うーん。||
 70z //すべての国は世||界のどこかの国で=
 71z 普通に食べられているものなので、
 72z ご安心下さい。
 73g はい。
 74z ではよろしくお願ひします。
 75z で一その一、一皿、おひ、一皿食べ終わりましたら=
 76z そこにあるベルを、鳴らしていただひ、ますか。
 77z えーと鳴らしていただきますと、
 78z 次のお皿を持てきますので=
 79z ちょっと試しに鳴らしててくださひ。
 80 {ベルの音}
 81g //@ありがとうございます。@||
 82i~ //音がでかいね||これ。
 83g // {フフ} ||
 84z //なんで、||お願ひします。
 85z と一それでは、どうぞ召し上がててくださひお願ひします。
 86i は//一い。||
 87h //はい。||

試食会が終わった後、受付でそれぞれのコース全体とそれぞれのコースで食べた物の評価をアンケートに書いてもらひ、その後初めて筆者が姿を見せ、承諾書や調査についての質問、感想を述べてもらひ、承諾書に署名をしてもらった¹。帰っててもらった後、後片づけをし、守衛さんに鍵を返した。また、承諾書をコピーし、参加者に郵送した。

本研究の資料は、以上の手順に従てて調査を行い、収集したが、参加条件を満たしてない（日本で生まれでない人が入っている）グループを1つ除き、残った13の試食会の談話を適切な資料とした。試食会はそれぞれ約50分で、3人の参加者からなるが、3つの国で普段食べている料理（comfort food）を1皿ずつ出す3コースをそれぞれ食べながら、出された料理について話したり、

評価したりする談話である。全員が30歳未満の談話は合計8つ（FFF 3組、FFM、FMM、MMM 3組）、全員が30歳以上の談話は合計5つ（FFF 2組、FFM、FMM、MMM）収集できた²。

本研究は、全員が30歳未満の女性（g, h, i）のグループによる【会話3】を対象にし、参加者はどのような観点から料理について話すのか、どのように料理を評価するのかを考察する。【会話3】の全体構造は試食会の説明（1z-87h）、日本料理（88g-391h）、セネガル料理（392h-994h）、アメリカ料理（995z-1749z）となっている。

4. 分析

本研究の試食会は、以前分析したテレビの料理番組と異なり（ザトラウスキー2010b）、料理人

は食べている場にはいないため、肯定的な評価以外に否定的な評価も見られた。全員が30歳未満の女性グループからなる【会話3】の試食会で見られた言語行動・非言語行動を稿末の【表1】で示す。【表1】の右側に具体例を示し、該当する場合肯定的・中立的・否定的に分けた³。評価表現を下線、強調表現を点線、和らげるモダリティ的な表現を二重下線で記す。【表1】の左の縦軸に示すようにa. 食べ物に対する直接反応、b. 評価表現、c. 料理の仕方、材料が料理に合うこと等についての感想、d. 食べ物の効果についての感想、e. 他の食べ物との比較、f. 予想と異なる味がするという感想、g. 食べ方、h. 同意、i. 量に関する表現、j. 外来語、k. 非言語行動が観察された。

a. 食べ物に対する直接反応は、Goffman (1981) の「叫び声による反応 (response cries)」、つまり反射的に思わず口から出てしまう表現と類似するものである。1. 間投詞、2. 強調表現、3. 倒置が見られた。1. 間投詞は【会話3】には種類はそれほど多くないが、「あ」「ああ」が見られた。2. 強意表現は程度を表したり、評価を強調する表現（「めっちゃくちゃ」「すごい」「大変」「全然」「結構」「非常に」「ちょっと」「もう」）である。3. 倒置は【会話3】の1749発話中約100発話で見られ、感情的 (emotive) な機能 (Ono & Suzuki 1992) をもつ場合 (461i～「魚なの？これ。」1305h～「//何の||味？これ。」) と発話を和らげる場合 (140g～「(2.2) なんかきなこ飴っぽいよ見た目的には。」、242h～「//なんか薄いも||ん、色が」) もあった (Maynard 1989)。

b. 評価表現は、1. 味、2. 香り・匂い、3. 食感に関するものが見られた。1. 味と3. 食感は肯定的、中立的、否定的な表現があったが、2. 香り・匂いに関しては中立的と否定的な表現のみであった。【表1】に示した発話は肯定的・中立的・否定的のどれに該当するかを認定する際、それまでの談話を考慮した。そのため文脈から取り

出して考える場合および異なる流れで用いられた場合には認定が異なる可能性がある。

1. 味 (味覚) を評価する表現は肯定的な表現には「おいしい」が圧倒的に多く、丁寧な310h「//たいへんおいしいゅうございました。」を含め、約40回発話された。また、「好き」、「大好き」、「好み」、「いい」、「やさしい味」、「うれしい」「いける」等もあった。中立的な表現 (168h「結構、あの一、薄味で味付けしてる？」169g「なんか、ひじき薄味だけど、」380g「普通に感じる。」) と否定的な評価を表す発話 (143g「なんかひじきちょっと生臭くない？」、170g「うどん濃くない？」、473i「(1.9) あたしこれ飲めないや、{フフフ}」537g～「あの日本食なんかちよつと味合わなかったあたし。」592-593i「//なんか、ヨー||グルトに=すべてかき消され//てる@気が||する。@」) もあった。否定的な評価を表す発話は和らげるモダリティ的な表現 (二重下線) に伴ってなされることが多い。

2. 香り・匂い (嗅覚) を評価する表現は肯定的なものはなかったが、中立的な発話 (446h「//うーん、||ス//パイシー||な匂いはしない。」856h「ばあちゃんが一、梅干をつくる時にうー、梅を天日干ししたときの匂い。」) と否定的な発話 (850i「あたし匂い駄目だな。」1302g「(2.1) なんか予想外の匂いがするよこのグミ。」1313h「(1.2) 病院の匂いが//する。||」1315g「なんか薬膳ばい。」) があった。否定的なものは倒置によって表現が和らげられる例があったが、1. 味を評価する表現と異なり、和らげるモダリティ的な表現に伴うものはなかった。

3. 食感 (触覚) は肯定的な表現 (127h「(4.6) 歯応えがある。」635h「え？ //この||食感@面白くて好きなん//けど。||@」638i「あたしも好きだよなんかこの不思議な食感。||」656i「(11.5) この肉の塊、あでも、この肉の塊柔らかいよ。」) があった。中立的な表現 (130g「(2.5) ツルツルしてる？」131g「まあ普通にうどんだ

よね。」306-307g「きなこ飴。きなこソフトキャンディー的な感じのやつだよね。」526g「ざらざらになってる。」767-768h「(2.4) ん、日本にもこうゆうさ、この白いぶにぶにしたのなかったっけ？」と否定的な表現(303i「うん、歯につくね。」631-632g「(2.0) なんかちよつとぶにぶにしているのに=ざらざらしててちよつと気@持ち悪い。」652h「(1.2) これこの粉っぽいのがちよつと、なければ。」950g「(2.9) このぶにぶにしたのきつい。」)にはオノマトベが見られた。

c. 料理の仕方、材料が料理に合うこと等についての感想は肯定的なものもなかったが、材料について中立的な発話(900-901g「(1.4) なんかでもこの鶏肉の煮たのにも=ヨーグルト入ってそうじゃない？味的に。」909、911-912g「(1.1) でもなんかヨーグルトっぽい感じ//した。//ヨーグルトとか牛乳かわかんないけど=なんかとりあえずミルクィな感じしたけど、」)が見られた。料理

の仕方、材料が料理に合うことについての否定的な発話(783-786g～「(1.4) コーンフレーク、このヨーグルト、このコーンフレークで、た、コーンフレークでなんか食べたい。コーンフレークかけたら=おいしそうじゃん？これ。」1088h「塩コショウが欲し@くなる。@」)もあった。

d. 食べ物の効果についての感想は健康に対して肯定的な発話(220g「@胃にやさしいメニュー//ね。@||」)と料理の組み合わせが重いという否定的な発話(581g「肉魚って濃いじゃん。」)が見られた。しかし、以下の【例2】の流れの中で見ると、581gはセネガル料理のマフェに鶏肉が入っていることが分かった後、ラッハを食べる前に何が入っているか考えている時に発話されたことが分かる⁴。一般的に肉と魚が両方出されたら重いという意味で否定的であるが、ラッハには何が入っているか分からないため、ラッハに対して否定的というわけではない。

【例2】セネガル料理(皿=マフェ、碗=ラッハ、コップ=バフィラ)(【会話3】(18:32-18:57))
((g、h：マフェをスプーンで食べている；i：ナプキン？を折っている))

575g (5.4) 鶏肉鶏肉。

576g (1.9) てことはこのヨーグルトっぽいのは肉じゃないってことかな。

577h～ @肉ではないでしょこれー。@

※h：左手を腕に添え中を見る。※i：右手でスプーンを持ち上げ、なめる。

578i //いけいけー。||

579g //さか-魚と||か肉系一、//じゃない [てことじゃない？そしたらさ、||

※i：左手で碗を持ち上げ、右手のスプーンで食べ始める。

[g：机の上に付けていた左手を肩の高さまで上げ、下線部で左手を胸上の高さまで下ろしながら左人差し指で手前の皿とカメラ側(前)の碗をそれぞれ1回指すことで、皿に肉が、碗に魚があるかのように指し示す。その後、左手を下ろし、左腕を机の上に付けて静止。]

580i～ //んーじゃいこうよこれ。||

581g 肉魚って濃い] じゃん。 ※h：右手でハイビスカスのジュースを持ち上げ、飲み始める。

582g なんか、//野菜？||

583i //なんだろ。||

584h (2.2) じゃあたしもちょっとこれ一口いってみよう。 ※h：両手で碗を持ち上げる。

585h→i どう？

586i うん、何だろ。 ※h：右手でスプーンを持ち上げる。

587h 人？

588h (1.2) 何かわからない。

589i うん。

e. 他の食べ物と比較する表現も見られた。肯定的な発話 (247i 「讃岐うどんとか、//好きだよ。||」 338i 「ご飯とか普通にでもあっちのおいしい。」 534i 「(3.0) あたし日本食が一番かも。」、中立的な発話 (512g 「(4.2) なんかトマトハヤシライスっぽい感じしない？」 772-773h 「//なんかこう和菓子//でさ=もちもちした一、」)、否定的な発話 (647h 「あのにごりとかあんまり私得意じゃないんだけど、」 1356g 「あたし日本のグミ嫌いだから、」 1358g 「(2.5) あの弾力のある感じが嫌い、日本のグミの。」 1359h 「あんま食べ@ないかもなグミ。@」)があった。

f. 予想と異なる味がするという感想には中立的な発話がなかった。また、肯定的な発話 (1175g 「え、なんか意//外にいける。||)より否定的な発話 (507、509i 「あーでも全然、甘ーそうに見えて甘く//ないから=ちよ//つととショック。{フフ}」 1132g 「チェリーらしきものにドレッシングが@かかっているというちよ//つととした衝撃。@」)が多く見られた。

g. 食べ方についての発話も観察された。肯定的な発話は簡単に食べられたことを強調し (714-715g 「いや、あれはあの、細かく崩して一、でご飯とぐちゃぐちゃにして食べてた。)、中立的な発話は相手の食べ方の観察 (722g 「(2.4) そうか、//塊で、//うん塊で食べてるねiiiは。)」と食べる習慣についての発話 (353h 「ま、えびせんとかポテちもたまに箸で食べるこ//とあるよ。||)が見られた。否定的な発話は食べにくい食べ方に言及する発話であった (1334-1335i 「(2.1) ああでも、一気にいったら=きついかも。))。

h. 同意は、相づち、笑い、繰り返しによって示された。

i. 量に関する表現は、視覚によって判断され

ることが多かったが、食べ物そのもののボリューム、サイズ、大きさもあれば (330g 「一個食べれば@いいわけでしょ?@」 344i 「なんか料理のボリュームがあるから=」 545-546i 「肉でかい。超塊じゃん。」 548i 「見て//この||サイズ。」 713i 「(2.6) なんかだつて、最初の、サイズが、」 1073i 「//あたしの||嫌いなトマトがさあ、たくさんあるのがさあ、//ちょっとさあ、||)、お腹の満腹感に言及する発話 (780h 「(4.5) これさすがに一杯はちょっと、お腹にきついかもしれない。」 958g 「いや全部はさすがに胃が@たぶたぶする。@」)も見られた。

j. 外来語は頻繁に用いられていた。表現 (レッツゴー、ギブギブ、サンクス、アウェイ)、名詞 (タイプ、マイお茶)、食べる道具 (プレート、ナイフ)、料理に関する言葉 (デザート、メニュー、ブランチ)、形容動詞 (ソフトキャンディー的な、ミルクキーな)、食べ物・飲み物の名前 (ジュース、ココナッツミルク、ケフィア、クルトン、ガーリック)、固有名詞 (カルフル)、地名・国名 (ミラノ、ブルガリア)が見られた。

k. 非言語行動は、食べ方 (すする音)、食べるための非言語行動 (食べる道具やお皿を手で持ったり使ったりすること)があった。そのほかに人差し指やお箸による指示的な身ぶりや拍子的な身ぶりも見られた⁵。

5. おわりに

試食会の参加者は、食べている物や食べている物の感想に対して様々な表現を用いると同時に、互いの発話をモニターしながら影響し合い、評価を時間とともに変えていく。本研究は【会話3】のみを取り上げたが、今後残りの12の談話を研究対象にする必要がある。その際、ある表現が談話

の流れの中で用いられることによってどのように否定的・中立的・肯定的な評価を表すのか、相互作用の中で評価がどのように変わるのかを考察したい。

文字化資料の表記方法（ザトラウスキー1993）

。 下降のイントネーションで文が終了することを示す。

? 疑問符ではなく、上昇のイントネーションを示す。

、 文が続く可能性がある場合のごく短い沈黙を示す。

— 長音記号の前の音節が長く延ばされており、「—」の数が多いほど、長く発せられたことを示す。

- 途切れた音を示す。

// || //と||はそれぞれ同時に発話された発話の重なった部分の始まりと終わりを示す。同時に発話されたすべての発話に記す。

(0.5) () の中の数字は10分の1秒単位で表示される沈黙の長さを示す。

= ポーズがなくても字数のため改行しないとけないことを示す。前方の発話の終わりに示す。

() () の中の発話が記録上不明瞭な発話を示す。

[カタカナ] { } 内のカタカナによって笑い、咳ばらい等の音を示す。

～ 倒置

※ 発話と同時に行われる非言語行動の説明。

(()) 発話間に行われる食べ物に関する行動の説明。

謝辞 お茶の水女子大学の高崎みどり先生、古瀬奈津子先生、香西みどり先生、星野裕子氏に色々お世話になり、感謝申し上げます。また、資料収集、資料作成等にご協力いただいた山田さおり氏、お茶の水女子大学の原田彩氏に感謝いたします。

本研究は2009~2011年度ミネソタ大学の科学研究費補助金Grant-in-Aidによる研究成果の一部である。

注

1 筆者はアメリカ人であるため、試食会の前に姿を見せると、どこの国の料理かが分かってしまう等の先入観を与えてしまい、中立的な資料が収集できない恐れがあった。そのため、試食会とその後のアンケートの記入が終わるまで日本人のアルバイトに受付や調査の指示をしてもらうことにした。

2 Fは女性、Mは男性の略である。

3 ここで言う肯定的・否定的というのは、発話の形ではなく、食べ物や食べ物に対する話者の気持ちを指している。

4 発話中の [] は身ぶりを伴った言葉の始まりと終わり、実線による下線部は身ぶりの中心の動き (stroke) を示す。発話の下に身ぶりを説明する。(身ぶりの記述についてザトラウスキー2010a、Szatrowski 2010c参照。)

5 McNeill (1992) によると、「指示的な身ぶり (deictic)」は、人差し指や体の他の部位 (手、頭、鼻、顎等)、ペン、棒等で何かを指す動作である。「拍子的な身ぶり (beat)」は、二段階からなる、低エネルギーで小さく素速い指か手の動きである。

参考文献

- 秋山まどか (2003) 「食感を表わすオノマトベについて」『国語研究』66 国学院大学国語研究会 pp. 12-27.
- Goffman, Erving. 1981. *Forms of talk*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Goodwin, Charles. 1986. Between and within: Alternative sequential treatments of continuers and assessments. *Human Studies* 9:205-217.
- Goodwin, Charles & Marjorie Harness Goodwin. 1987. Concurrent operations on talk: Notes on the interactive organization of assessments. *IPrA Papers in Pragmatics* 1.1:1-54.
- 早川文代 (2006) 『食感のオノマトベ』三省堂.
- 林四郎 (1973) 「表現行動のモデル」『国語学』92, 国語学会.
- 林四郎 (1974) 『言語表現の構造』明治書院.
- Labov, William. 1972. *Language in the inner city*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Maynard, Senko. 1989. *Japanese conversation: Contextualization through structure and interactional*

- management*. Norwood, N.J.: Ablex Publishing Company.
- McNeill, David. 1992. *Hand and mind: What gestures reveal about thought*. Chicago: Chicago University Press.
- ザトラウスキー、ポリー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版.
- ザトラウスキー、ポリー (2010a) 「講義の談話の非言語行動」『講義の表現と理解』佐久間まゆみ (編) くろしお出版pp. 187-204.
- ザトラウスキー、ポリー (2010b) 「テレビの料理番組の中に見られる言語・非言語行動による評価表現」(表現学会第47回全国大会2010.6.6お茶の水女子大学).
- Szatrowski, Polly. 2010c. Creating involvement in a large Japanese lecture: Telling the story of a haiku. *Storytelling across Japanese conversational genre*, ed. by Polly Szatrowski, 267-300. Amsterdam: John Benjamins.

【表1】無料試食会で見られた言語行動・非言語行動（下線＝評価表現、点線＝強調表現、二重下線＝和らげるモダリティ的な表現）

言語行動・非言語行動		具体例	
a. 食べ物に対する直接反応			
1. 間投詞			
2. 強意表現			
3. 倒置			
b. 評価表現			
1. 味（味覚）	<p>肯定的</p> <p>「おいしい」（約40回）、310h「//たいい、<u>んおおいし</u>ゆうございました。」「好き」、<u>大好き</u>、「好き」、「いい」、「やさしい味」、「うれしい」「いける」等</p> <p>中立的</p> <p>168h「結構、あの一、薄味で味付けしてる?」 169g「なんか、ひじき薄味だけど、」199g「<u>な</u>んか、油揚げが@甘い。@」238g「(1.3) これ、<u>なんか</u>、西日本ほい//感じだよね。」312g「(4.0) 全般的に<u>関西風</u>なのかなあ。」315h「あ、味付け<u>そうかも</u>ね。 378g「<u>そんな</u>おいしい@の<u>かな</u>。@」380g「<u>普通に</u>感じる。」500i「あでも<u>結構</u>平気かも。」</p> <p>否定的</p> <p>143g「<u>なんか</u>ひじきちよつと生臭くない?」、170g「<u>うどん</u>濃くない?」、172i「//濃い。 」、173h「ちよつとしよっぱいかな。」471g「(3.8) <u>すっぱい?</u>」473i「(1.9) あたしこれ飲めないや、<u>{フアフ}</u>」486g「<u>なんか</u>ちよつとすっぱい感じの何だろ。」537g「<u>あの</u>日本食<u>なんか</u>ちよつと味合わなかつたあたし。」592-593i「//<u>なんか</u>、<u>ヨー </u>グルトに=<u>すべて</u>かき消され//てる@<u>気が</u>する。@」</p>		
2. 香り・匂い（嗅覚）	<p>446h「//うーん、<u>ス//バイシー</u>な匂いはいい。」465g「これも<u>なんか</u>そこはかとなくクリミーな匂いがあるんだけど」856h「<u>はあ</u>ちゃんが一、梅干をつくるときにう、梅を天日干したときの匂い。」1300g「何だろこの匂い。」</p> <p>850i「<u>あたし</u>匂い<u>駄目</u>だな。」1302g「(2.1) <u>なんか</u>予想外の匂いがあるよこのグミ。」1311g「ちよつと@<u>予想</u>外の匂いがある。@」1313h「(1.2) <u>病院</u>の匂い//する。 」1315g「<u>なんか</u>薬膳ほい。」1363g「(3.0) <u>そこ</u>はかとない@<u>選</u>方くささ。@」</p>		

<p>3. 食感 (触覚) (オノマトペを含む)</p>	<p>127h 「(4.6) 歯応えがある。」 635h 「え? //この食感@面白くて好きなん//だけど。@」 638i 「あたしも好きだよなんかこの不思議な食感。 」 639h 「//うんそう得休 の知れない感が。」 656i 「(11.5) この肉の塊、あでも、この肉の塊柔らかいよ。」</p>	<p>130g 「(2.5) ツルツルしてる?」 131g 「まあ普通にうどんだよね。」 306-307g 「きなこ餡。きなこソフトキヤンデイー的な感じのやつだよね。」 518i 「(2.7) なんかも粉っぽい気がする。」 526g 「ざらざらになってる。」 658g 「//うん、 崩れる。」 767-768h 「(2.4) ん、日本にもこうゆうさ、この白いぶにぶにしたのなかつたっけ?」 1332g 「でも平気。」 1333i 「@あたしも平気。@」</p>	<p>303i 「うん、歯につくね。」 305i 「てか口につくね。」 631-632g 「(2.0) なんかもちよつとぶにぶにしてるのに=ざらざらしててちよつと気@持ち悪い。@」 652h 「(1.2) これこの粉っぽいのがちよつと、なければ。」 950g 「(2.9) このぶにぶにしたのきついい。」 1329h 「(1.0) ん、これ、やばいちよつとずっと噛み続けるのは、」 1344h 「(2.5) しかも歯について取れないといふ。」 1346h 「うーん、取れないね。」 1379g 「歯から取@れねー。@」</p>
<p>c. 料理の仕方、材料が料理に合うこと等についての感想</p>		<p>材料900-901g 「(1.4) なんかもこの鶏肉の煮たのにも=ヨーグルト入ってそうじゃない? 味的に。」 904-905g 「うん、なんかもヨーグルト//入ってそうだよ=ヨーグルト入//ってそう。」 908、911-912g 「(1.1) でもなんかもヨーグルトっぽい感じ//した。 ヨーグルトとか牛乳かわかんないけど=なんかもとりありえずミルクキーな感じしたけど、」</p>	<p>783-786g 「(1.4) コーンフレーク、このヨーグルト、このコーンフレークで、た、コーンフレークでなんかも食べたい。コーンフレークかけたら=おいしそうじゃん? これ。」 1088h 「塩コシヨウが欲し@くなる。@」 1152g 「(3.7) 野菜もつとあってもいいな。」 1159-1160h 「このチェリーかわかんない、の、のは、入れなくてもいいかなあはしは。」 1162i 「//あたし トマト入れなくていいかな。」</p>
<p>d. 食べ物の効果についての感想</p>	<p>220g 「@置にやさしいメニュー//ね。@ 」</p>		<p>581g 「肉魚って濃いじゃん。」</p>
<p>e. 他の食べ物との比較</p>	<p>247i 「讃岐うどんとか、//好きだよ。 」 252i 「(1.5) コシがある。」 338i 「ご飯とか普通にでもあつちのおいしいし。」; 一般的な好み: 301i 「//うん、 きなこと好き。」 534i 「(3.0) あたし日本食が一番かも。」</p>	<p>512g 「(4.2) なんかもトマトハヤシライスっぽい感じしない?」 772-773h 「//なんかも和菓子 でさ=もちもちした二、 1247g 「狗肉クッキーみたいなの。」</p>	<p>177g 「(3.3) コンビニ弁当のひじきってさあ、」 647h 「あのにごりとかあんまり私得意じゃないんだけど、」 1356g 「あたし日本のグミ嫌いだから、」 1358g 「(2.5) あの弾力のある感じが嫌い、日本のグミの。」 1359h 「あんま食べ@ないかもなグミ。@」 1360i 「(1.0) 歯につく、」</p>

<p>f. 予想と異なる味がすると いう感想</p>	<p>1175g 「え、なんか意//外にいける。 」</p>	<p>722g 「(2.4) そうか、//塊で、//うん塊で食べてるねiiiは。」 724i 「@うん、塊のままは食べて食べた。」 717h 「(2.6) な、ん、え、ないけど。@」；食べる習慣：353h 「ま、えび 適当な大きさに崩して//から、 」 721g 「(1.9) 結構細かく崩してからご飯に混ぜて食べた。」</p>	<p>507, 509i 「あーでも全然、甘ーそーうに見えて甘く//ないから=ちよ 口とシヨック。{フフ}」 1132g 「チェリーらしきものにドレッシングが @かかっているとちよ ととした衝撃。@」</p>
<p>g. 食べ物をどのように食べるかについての発話</p>	<p>714-715g 「いや、あれはあの、細かく崩して一、でご飯とぐちゃぐちゃにして食べた。」 717h 「(2.6) な、ん、え、ないけど。@」；食べる習慣：353h 「ま、えび 適当な大きさに崩して//から、 」 721g 「(1.9) 結構細かく崩してからご飯に混ぜて食べた。」</p>	<p>722g 「(2.4) そうか、//塊で、//うん塊で食べてるねiiiは。」 724i 「@うん、塊のままは食べて食べた。」 717h 「(2.6) な、ん、え、適当な大きさに崩して//から、 」 725g 「もうなんか、ざつくり大きめの塊みたいな？」 726, 728h 「(1.3) でもiii最初のさあ、//大きさも 結構大き@//かた よね、@ 」 734h 「(2.7) あれじゃんー//番口 小ささ、//そうなる人におつき//い@ものを、 」 780h 「(4.5) これさすがに一杯はちよつと、お腹にきついかもしれない。」 958g 「いや全部はさすがに胃が@たぶたぶする。@」 1073i 「//あたしの 嫌いなトマトがさあ、たぐさんあるのがさあ、//ちよつとさあ、 」 1097i 「(1.0) あー、トマトいっぱいある。{フフ}」</p>	<p>1334-1335i 「(2.1) ああでも、一気にいったら =きついかも。」</p>
<p>h. 同意</p>	<p>相づち、笑い、繰り返し</p>		
<p>i. 量に関する表現</p>	<p>57z 「で試食できる量の食べ物が、えー幾種類か載っていますので=」 330g 「一個食べれば@いいわけでしょ？@」 344i 「なんか料理のボリュームがあるから=」 544h 「に、肉でかいな {ハハ}」 545-546i 「肉でかい。超塊じゃん。」 548i 「見て//この サイズ。」 713i 「(2.6) なんかだつて、最初の、サイズが、」 717h 「(2.6) な、ん、え、適当な大きさに崩して//から、 」 725g 「もうなんか、ざつくり大きめの塊みたいな？」 726, 728h 「(1.3) でもiii最初のさあ、//大きさも 結構大き@//かた よね、@ 」 734h 「(2.7) あれじゃんー//番口 小ささ、//そうなる人におつき//い@ものを、 」 780h 「(4.5) これさすがに一杯はちよつと、お腹にきついかもしれない。」 958g 「いや全部はさすがに胃が@たぶたぶする。@」 1073i 「//あたしの 嫌いなトマトがさあ、たぐさんあるのがさあ、//ちよつとさあ、 」 1097i 「(1.0) あー、トマトいっぱいある。{フフ}」</p>		
<p>j. 外来語</p>	<p>【表現】：レッツゴー、ギブギブ、オフレコ、サンクス；アウェイ、シュール；【名詞】：タイプ、マイお茶、ラインナップ；【食べる道具等】：プレート、ナイフ、フォーク、スプーン；【料理】：デザート、メニュー、ブランチ、サラダバー、ポリューム、サイズ、バランス；【形容動詞】：ソフトキャンディー的な、ス//パイシー、クリーミー、マイルドに、ミルクに、【食べる・飲み物の名前】：ジュース、アセロラジュース、カレー、ココナッツミルク、フルーツ、トマトハヤシライス、レーズン、パン、レーズンパン、ヨーグルト、ケフィア、ケーキ、チョコ、クッキー、トマト、キャベツ、パスタ、チーズ、ベリー、克蘭ベリー、レーズン、チェリー、ドレッシング、サラダ、クルトン、ガーリック、グミ；【固有名詞】：カルフォル；【地名・国名】：カスピ海、ミラノ、ヨーロッパ、アジア、ブルガリア</p>		
<p>k. 非言語行動</p>	<p>すすする音、食べる道具やお皿を手で持ったり使ったりすること。</p>		<p>人差し指やお箸による指示的な身ぶり、拍子的な身ぶり。食べ物を口に入れることで食べ物を指すこと。</p>